

～園で大切にしている人権の取り組み～

まだ文字を習得していない子どもにとって絵は「おてがみ」と言われています。
保育士は、子どもたちが描きながら発するつぶやきに耳を傾け、子どもの思いを知り共感し
向き合う時間を大切にしています。
家族や友だち、保育士に伝えたい思いがたくさんつまった生活画を紹介します。



「ママのおかお
にここにだよ
ねえねとおいかけっこしたり、
ボールであそぶ。」

2歳児

家族の笑顔を思い浮かべながら描いていました。

「ぼくのパパは、ぼくのおもちゃをはこんでる。ママ
はくるまはこぶ。じいじのおうちにはこぶ。じいじ
のおうちが、ぼくのおうちになるから。」

3歳児

大切な宝物と一緒に引っ越しできてよかったね。おじ
いちゃんとの生活も楽しみな様子が伝わります。



「ママとおふろはいつてるときにね、みかん
ジュースをつくったのがたのしかった。
しゅわしゅわでオレンジいろのつくったの。ママ
とジュースつくれてたのしかった。」

4歳児

ママとお風呂で遊ぶことが楽しみなんです。

「わたしがねつがでたときに、ママとおばあちゃん
とびょういんにいった。きつかったけど、おくすり
のんだらなおった。ママが「だいじょうぶ？」って
ってくれたのがうれしかった。」

4歳児

病気の時に優しい声をかけてもらったことが心の中に
残っていたようですね。



子どものつぶやきの中で出る名前は「わたし」「おにいちゃん」等には書き換えています。